れいわ２ねんど　ふゆごう
としょかんだより　ていがくねんむけブックリスト
あいおいしりつとしょかん

☎ 0791-23-5151

クリスマスがやってくる

『ちいさなろば』　ルース・エインズワース・作//酒井信義・画//石井桃子・訳//福音館書店//P－エ

あるぼくじょうに、小さなろばがいました。ろばには友だちがおらず、いつもひとりぼっちでした。ある年のクリスマス・イブのこと、ろばはすずの鳴る音で目をさましました。見ると、ぼくじょうにそりにのったサンタ・クロースがいます。ろばは、足をけがしたトナカイのかわりに、てつだってほしいとたのまれ…。

『子うさぎましろのお話』　ささきたづ・文//みよしせきや・絵//ポプラ社//P－サ

クリスマスがやってきました。サンタ=クロースのおじいさんは、まず北の国のどうぶつの子どもたちにおくりものをして、それからせかいじゅうに出かけていきました。白うさぎの子・ましろは、その中でもいちばん先におくりものをもらいました。もういちどおくりものがほしくなったましろは、べつのうさぎのふりをして、おじいさんに会いに行きます。

『ちいさなもみのき』　マーガレット・ワイズ・ブラウン・作//バーバラ・クーニー・絵//かみじょうゆみこ・訳//福音館書店//P－ブ

森のはずれに、小さなもみの木が立っていました。ある年の冬、男の人がやって来て、もみの木をていねいに土からほり出し、家にもって帰りました。その家にいる足のわるい男の子のためでした。小さなもみの木は、冬のあいだはその男の子のそばですごし、春になると森に帰っていきました。そのつぎの年も同じようにすごしました。しかし、そのつぎのつぎの年は…。

『山のクリスマス』

ルドウィヒ・ベーメルマンス・文・絵//光吉夏弥・訳//岩波書店//P－ベ

学校がクリスマスの休みに入り、ハンシは山にすむハーマンおじさんのところへ、一人であそびに行くことになりました。さいしょは、お母さんとはなればなれになるのがさびしく、帰りたいと思っていたハーマンでしたが…。

2021年は丑年！うしが出てくる絵本

『くいしんぼうのはなこさん』

いしいももこ・文//なかたにちよこ・絵//福音館書店//P－イ

あるおひゃくしょうのところに、はなこという名の子牛がいました。はなこはわがままを言って、ごちそうばかり食べていたので、体がとても大きくなりました。春になり、山のぼくじょうにつれて行かれると、そこにはたくさんの子牛たちがあつまっていました。子牛たちはつよさをきそい合い、ぼくじょうの女王をきめました。そしてはなこは一番になり、わがままにくらしていましたが…。

『モーモーまきばのおきゃくさま』

マリー＝ホール＝エッツ・文・絵//やまのうちきよこ・訳//偕成社//P－エ

春、ぼくじょうで牛が草を食べていました。草がとてもおいしかったので、牛はだれかに食べさせてあげたくなりました。それを聞いたカケスは、どうぶつたちをよびに行き、ウマ、ヤギ、ブタ、子ヒツジ、イヌ、ネコ、ガチョウ、めんどり、おんどり、ネズミがやってきますが…。

『はなのすきなうし』　マンロー・リーフ・おはなし//ロバート・ローソン・絵//

光吉夏弥・訳//岩波書店//P－リ

むかし、スペインにフェルジナンドという牛がいました。フェルジナンドはほかの牛たちとはちがって、木の下でひとりしずかに花のにおいをかぐのがすきな牛でした。ある日、五人の男たちがとうぎゅうに出す牛をさがしにやってきます。まったくきょうみのないフェルジナンドでしたが…。

ゆきあそびだいすき

『だんだんやまのそりすべり』　あまんきみこ・作//西村繁男・絵//福音館書店//P－ア

山の子どもたちはそりすべりに出かけました。いずみという名の女の子・いっちゃんがこわくてすべれずにいると、どうぶつの子どもたちもそりすべりにやってきました。その中にはいっちゃんとよばれているキツネの子どもがいて…。

『ウッレのスキーのたび』　エルサ・ベスコフ・作//

石井登志子・訳//フェリシモ出版//P－ベ

ウッレは、６さいのたんじょうびにお父さんからスキーをもらいました。それから長くまちのぞみ、ようやく雪がつもったある朝、ウッレは森にスキーをしに出かけまし

た。森のおくにすすんでいくと、目の前に体が白くかがやいているおじいさんがあらわれます。

★あいおいしりつとしょかんには、冬のしぜんをえがいたしゃしん絵本もあります。
『しもばしら』　細島雅代・写真//伊地知英信・文//岩崎書店//45
『つらら』　細島雅代・写真//伊地知英信・文//ポプラ社//45
『ふゆとみずのまほうこおり』　片平孝・写真・文//ポプラ社//45
『おかしなゆきふしぎなこおり』　片平孝・写真・文//ポプラ社//P－カ

ほかにもあるよ！おすすめの本

『かさじぞう』　瀬田貞二・再話//赤羽末吉・画//福音館書店//P

あるところに、びんぼうなおじいさんとおばあさんがいました。おおみそかをむかえ、正月のもちを買うために、あみがさを売りに行きましたが、まったく売れませんでした。家に帰るとちゅう、雪をかぶって立っている六じぞうを見て、おじいさんは売るためのあみがさと自分のかさをかぶせます。

『おんちょろちょろ　日本民話』　瀬田貞二・再話//梶山俊夫・画//福音館書店//Ｐ

むかし、一人の男の子がおつかいのとちゅうで、道にまよってしまいました。ようやく一けんの家を見つけて、ひとばんとめてもらうことに。その家のおじいさんとおばあさんは、男の子を寺のこぞうだとかんちがいしていて、おきょうをあげてほしいとたのみます。ことわることができない男の子は、でたらめのおきょうをとなえて、その場をきりぬけます。そのご、その家に三人のどろぼうが入りこみ…。

『てぶくろがいっぱい』　フローレンス・スロボドキン・文//ルイス・スロボドキン・絵//三原泉・訳//偕成社//Ｐ－ス

ネッドとドニーは、ふたごの男の子です。冬のある日、ドニーがてぶくろをかたほうなくしてしまいます。そのあと、すぐにてぶくろは見つかります。しかし、見つかったあとも、てぶくろをなくしたことを聞いたたくさんの知りあいが、てぶくろを見つけてきてくれて…。

『ゆうかんなアイリーン』　ウィリアム・スタイグ・作//おがわえつこ・訳//セーラー出版//Ｐ－ス

アイリーンはお母さんのかわりに、遠くはなれた家にドレスをとどけに行くことになりました。外は雪がふり、風も強くふいています。とちゅうで、強い風がドレスの入ったはこをふきとばし、中のドレスがとんでいってしまいます。

『じょやのかね』　とうごうなりさ・作//福音館書店//P－ト

おおみそか、男の子は父親といっしょに、お寺へじょやのかねをつきに出かけます。お寺にむかう道はしずかでくらく、男の子は父親においていかれないようにひっしについていきます。お寺につくと、門のまえにはたくさんの人がならんでいました。あたらしい年をむかえるようすが、男の子の目からえがかれます。

『ふゆねこさん』　ハワード・ノッツ・作//まつおかきょうこ・訳//偕成社//P－ノ

夏に野原でうまれたねこは、はじめての冬をむかえました。野原では三人の子どもたちがあそんでいて、ねこに声をかけてきます。さいしょのころは、子どもたちが近づいていくと、にげだしていたねこでしたが…。

『くまのビーディーくん』ドン・フリーマン・作//まつおかきょうこ・訳//偕成社//P－フ

ビーディーくんは、ぜんまいじかけのおもちゃのくまです。ある日、もちぬしのセイヤーくんが出かけてしまったので、一人で本を読んでいました。その本には、くまがほらあなにすむどうぶつだと書いてありました。まどから見えるところにほらあなを見つけたビーディーくんは、書きおきをして家を出ていきますが…。

『トムテ』　ヴィクトール＝リードベリ・作//ハラルド＝ウィーベリ・絵//
やまのうちきよこ・訳//偕成社//Ｐ－リ

トムテは、スウェーデンののうかや、しごとばなどにすんでいる小人です。すべてがねしずまった夜、トムテはただ一人おきていて、かぞくみんなのようすを見て回ります。うつくしい詩と絵をあじわってください。

『しもやけぐま』　今江祥智・文//あべ弘士・絵//文研出版//91－イ

くまのウルは自分のすあなでねむっていました。しかし、あつがりだったせいか、右足がすあなから出ていて、しもやけになってしまいました。それでもウルは目をさまさず、足をもぞもぞとうごかしているだけでした。その音を聞きつけて、一人のおじいさんがウルのすあなの前にやってきます。

『ヘムロック山のくま』　アリス・デルグレーシュ・作//太田大八・画//
松岡享子・藤森和子・共訳//福音館書店//93－デ

ヘムロック山のふもとに、ジョナサンという名まえの 8 さいの男の子がすんでいました。ある日、お母さんにたのまれて、ジョナサンは一人で山のむこうにすむエマおばさんの家に、大きななべをかりに行くことになりました。
冬のおわりのジョナサンの大ぼうけんをえがいたおはなしです。